

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3091500029		
法人名	有限会社 メディカルサービス有田		
事業所名	グループホームゆりのき苑やまち		
所在地 (電話番号)	和歌山県有田市山地44 (電話) 0737-82-5300		
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成20年3月15日	評価確定日	平成20年3月31日

## 【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4人, 非常勤 7人, 常勤換算 3.8人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

### (4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 78 歳	最低 42 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	楠本内科医院、川島歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周りを果樹や野菜畑に囲まれたのどかな地域にあるこの事業所は、管理者と職員の信頼関係が良好で、利用者の日常生活に安定感を与えている。自ら考え、行動する職員に育てるために管理者が必要以上に関わらず、ポイントは押さえつつ、職員の自主性に任せている。開設1年をすぎたところで歴史は浅いが地域に馴染んでおり、また同法人の運営するグループホームから情報を得て自らの取り組みに活かしている。運営推進会議においても会議は両事業所の地域の人や家族の参加を得て開催され活発な意見交換がなされ、サービスの向上に活かされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価は今回が初めてである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員ともにその意義を十分理解しており、ミーティングにおいて全員で意見交換を行って管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2~3ヶ月に1回の頻度で開催している。会議はホームと地域との橋渡し役を担っており、事業所の取り組み等を伝え、地域からの防災情報をいただいたり活発な意見交換の場所となっておりそこの意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族面会時等、意見や要望を出しやすいように積極的に声掛けを行っている。頂いた意見には迅速に対応し運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、利用者が職員とともに自治会活動(溝掃除や回覧板等)を当たり前のように行っている。また、地域の祭りやイベント等に積極的に参加し住民との交流に努める他、自主防災組織に加わり地域との協力体制がなされている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続ける、ということについては管理者、職員ともに共有できており、また実践でも充実したケアがなされている。しかし事業所内に掲示されている運営理念には「地域密着」という部分が含まれていない。	○	運営者も含めて管理者、職員全員で「地域住民との交流の下でのサービス」という理念を再確認するためにも、また家族等外部の出入りする人々にアピールするためにも地域密着型サービスの文言を加えることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員ともに理念を共有し、日々の業務の中で実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、その活動（溝掃除や回覧板等）を利用者が職員とともに地域の一員として当たり前のように行っている。小・中学校や専門学校の研修を積極的に受け入れたり、地域の祭りやイベントに参加してその交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員ともにその意義は十分に理解しており、自己評価はミーティングにおいて全員で意見交換を行って管理者がまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回の頻度で開催している。そこでは事業所の取り組みを報告、また地域の情報をいただいたり活発に意見交換がなされサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは積極的に連携を図っており、事業所の実状を話して指導・助言を受ける等、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、ゆりのき通信を送付して日頃の様子等を知らせている。面会の少ない家族には電話等で連絡を密にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見や要望を出しやすいように声かけを積極的に行っている。また運営推進会議でも素直な意見が得られており運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援を受けられるように職員の異動は抑えている。職員の退職では引継時、利用者や家族の不安を最小限にするための取り組みがなされた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講師を招いて内部研修を行ったり、外部研修にはすべての職員が交代で参加している。また報告書や伝達講習の形で全職員のレベルアップを図っている。また職員同士で共に考え、助言し合う環境整備がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム間での情報交換を行っているが、より実りのある研修の機会がもてるようネットワークづくりを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>づくりが</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族や利用者に見学等をしてもらい、職員や他の利用者の生活の様子を見て頂いたり、また納得いくまで話し合っ安心して馴染めるような配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や得意分野を知り、一人ひとりが力を発揮できるよう配慮している。また職員は利用者を人生の先輩として見ており畑仕事や料理等教えてもらうことも多く、支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を把握するために日々表情や言動の観察をじっくり行い、対応している。できるだけ本人本位のケアを心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や思いを尊重した上で家族や職員、必要な関係者の意見を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は2～3ヶ月に1回の見直しを行っている。また状態の変化があれば関係者と話し合っ随時見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の契約を結んでおり、十分な医療体制が整えられている。また特別な外出支援により個々の満足度を高められるよう支援している。		
で、					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、協力医療機関からの往診があり、利用者が心待ちにするなど信頼関係が得られている。職員も気軽に相談できて良好な関係が築けており、適切な医療の支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合や終末期の対応について説明を行っており、家族からも安心されている。状態の変化や方針については医師、家族とともに話し合い、全員で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないよう声掛けや対応に配慮しており、また記録等個人情報の取り扱いも管理を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々の業務を優先することなく、利用者一人ひとりのペースや希望に添って生活できるよう支援しており、細かいスケジュールを立てないで一日をゆったり過ごす関わりがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日スーパーに出かけていって、利用者とともに食材を見てその日の献立を考えている。菜園で収穫した野菜を食卓に乗せることもあり、職員と一緒に調理や後片付けをする等、楽しんで食事ができるよう支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は出来る限り利用者それぞれの希望に添った時間になされており、職員は介助しながらおしゃべりと一緒に歌ったりゆとりを持って接して入浴を楽しめるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や調理、後片付け等一人ひとりの得意分野で力を発揮して張り合いのある日常を過ごせるよう支援している。また童謡や軍歌、カラオケ等楽しみごとや気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に一人でも外出できる状況にあり、近隣者と立ち話等を楽しんでいる。また毎日の買い物や希望する場所へのドライブ等外出の支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	午前6時から午後8時までの日中は施錠していない。きめ細かな見守りにより、利用者の外出行動もわかるようになったが、さらに安全に過ごせる工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練を行い避難経路の確認を行った。運営推進会議での話題から、自主防災組織に組み込んでもらうこととなり地域との協力体制の整備が進んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好も取り入れて、食事摂取量や栄養バランスに配慮した献立となっている。また水分量は特に記録はしていないが体調など見ながら支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には水槽に熱帯魚が泳ぎ、窓からは果樹園の緑を眺めることができる。ゆったり居心地よく過ごせるスペースとなっている。また正月や雛祭り、七夕、クリスマス等の飾りで季節の移り変わりを感じることができる。食事タイムには利用者自らテレビをBGMに切り替えるなど快適に過ごす工夫ができています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、利用者の使い慣れたもの、好みのもの(昔の写真等)を持参してもらい、安心して過ごせる工夫がなされている。		